

[018] 語文研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/10252>

出版情報：語文研究. 18, 1964-08-31. 九州大学国語国文学会
バージョン：
権利関係：

編集後記

福田良輔先生は、本年四月二十七日に、めでたく還暦を迎えられた。生来必ずしも強健ではいらっしやらない先生が、至ってお元気にこの日を迎えられたことは、研究室員一同はいうまでもなく、同窓諸賢にとつても、大きな喜びであろう。

五月二日には、福岡周辺の会員五十余名が集まり、ささやかながら、祝宴も開かれた。同窓生その他の祝辞について、先生の御健筆と券とに因んで、万年筆が記念品として贈られた。余興には、有志の謡曲・詩吟などの外に、趣向をこらした「古代語文索引」もあり、好評であった。先生は、その間、会員たちにお困まれて、終始ニコニコしておられたが、思いなしか、銀髪はいよいよ輝きを増し、御血色も一段とよろしいように見受けられた。

周知のとおり、先生は、一昨年めでたく学位を得られ、本年はすでに二月に「古代語文ノート」を桜楓社より御刊行、さらに近く、別に学位論文を御刊行の予定である。過去三

十年を越える先生の研究生活の間には、敗戦による台湾からの引き揚げなど、盤根錯節も当然ありだつたであろう。しかし、先生は、それに耐え抜き、一步一步今日まで歩き通された。かくして、学問の年輪が内に層をなして加わり、自ら熟して、今日、みごとに外に現れたということであろう。

令夫人とお二人きりの簡素なアパートのお住いには、新しい愛犬ピコが訪問者の人気を得、数十羽の鳩も、日毎に奥さまの手から餌をついばみに、窓下に集まってくる。また、元気でかわいなお孫さんも折々はお爺ちやまのところへ遊びに来られる。学究としての、理想的な御日常と拝見するのである。

先生の御健康と今後の御研究の一層の御発展を祈つてやまない。

本誌は、右の意味で、福田先生の還暦記念特集号とし、内容は、先生御専門の国語学に限る、主に受講生の方々に執筆をお願いした。宴会もこの特集号も、諸事内輪にという先生の御趣旨に従わせていただいての事である。執筆の諸賢には、お忙しい中を、何れも力作をお寄せ下さったこと、まことに有難く、あつく御礼申し上げる次第である。

なお、ついでながら、七月中旬研究室は無事新館に移転し、法・文・経・教の人文科学系四学部が、箱崎浜地区にまとまつた。国語学国文学研究室は三階東側にあり、演習室（十七坪）と助手・大学院学生室（八坪半）との二室。書庫は別に廊下を距てた向い側にある。従来よりも断然広くなったことのほかに、設備も良くなった。その影響が今後の学生諸君の研究成果の上に、どれだけ現れるか、楽しみである。また、教官研究室も三階の北側に、四室まとめられた。右に伴つて、研究室への出入規定もすこし変つたので御諒承願いたい。

(今井)